

山本雅代教授記念号に寄せて

山本雅代関西学院大学教授は、2010年4月の関西学院大学国際学部開設とともに本学商学部から移籍して就任され、2020年3月末をもって定年退職を迎えられます。

山本教授は、1974年に獨協大学外国語学部を卒業後、アメリカ合衆国ハワイ大学マノア校・大学院「第2言語としての英語学」研究科修士課程を修了されました。

1982年から帝塚山短期大学・近畿大学等にて兼任講師を務められた後、1990年に芦屋大学教育学部助教授に就任されました。1994年には桃山学院大学文学部助教授に転出され、1997年に教授へと昇任されています。この間に国際基督教大学大学院教育学研究科博士課程後期課程で学ばれ、2000年にPh.D. in Educationの学位を取得されました。2000年に本学言語教育研究センター教授・商学部教授として本学の英語教育を担われるほか、翌年より関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科修士課程指導教授（2002年には博士課程前期課程・後期課程指導教授）として研究者養成に尽力されました。その後、本学部教授に就任され、現在に至っておられます。また、2015年度より関西学院大学・特定プロジェクト研究センター「手話言語研究センター」センター長を務められ、同センターは日本財団からの助成金をうけた学内機関に発展し、現在までセンター長としての重責を担われてきました。

学会活動においては、異文化間教育学会、社会言語科学学会、第1言語としてのバイリンガリズム研究会などに所属されています。とくに異文化間教育学会では学会紀要編集委員会の各種委員をはじめ理事・常任理事などとして中心的な役割をはたされてきました。第1言語としてのバイリンガリズム研究会では代表・会長を務められました。2001年から海外雑誌 *International Journal of Bilingual Education and Bilingualism* の編集委員としても活躍されています。

同教授の研究分野は、日本語と英語の二つの母語をもつ家庭の言語環境に育った子どもの言語習得と言語使用の問題を解明するバイリンガリズム研究ですが、それにとどまらず社会言語学にはじまり異言語間教育、言語習得論、認知言語学、多言語主義など、広く周辺分野にわたっています。近年は、手話を言語として捉えた先端的な研究に取り組み、先述の「手話言語研究センター」の責任者として手話の再評価と普及に努力されました。これらの成果として3冊の単著、多くの共著書、ならびに30数編の学術論文を発表され、旺盛な研究活動を長年にわたって継続されています。とりわけバイリンガリズム研究においては、日本で斯の領域が普及・定着するための指導的役割を果たしたと云っても過言ではないでしょう。教育面においても、本学大学院言語コミュニケーション文化研究科において複数の大学院生を指導されています。そして、何より国際学部の設置に際して開設準備委員会委員となり、その構想において中心的役割を担われました。国際学部開設とともに学生主任となり誕生したばかりの学部運営に尽力され、また、多数の学生を指導して社会に送り出してこられました。

このように山本雅代教授は学内外で教育・研究のいずれにおいても長年、多大な貢献をされておられます。この度の御退職に際し、国際学部としての感謝の意を表して本記念号を発行することにいたしました。記念号の趣旨に賛同し寄稿して下さった執筆者の方々、また編集の労を取って下さった『国際学研究』編集委員の皆様篤く御礼申し上げます。

最後に、山本雅代教授の御健康と今後の研究のいっそうの御発展を祈念しつつ、刊行の辞とさせていただきます。

2020年3月吉日

国際学部長 平 林 孝 裕